

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【数学／数学Ⅱ】

1. 対象（実施をする学校・生徒の実態の概要） 1年理数科(41名)

数学に興味・関心を持つ生徒が多く、中にはとことん深く追求したいと考える生徒もいる。また、学力の差もやや見られるために、丁寧な指導を心がけたい。

2. 単元名 「 いろいろな式 」(全10時間)

3. 単元目標 2項定理の性質を活かして思考力を深める

4. 本時の目標

2項定理の展開式にさまざまな数値を代入することにより、式の値を求めることを理解するとともに、対話を通じて整数の理論について深く学ぶ

5. 授業展開

解決したい課題や問い

「 m が素数であるとき、 $2^m - 2$ が m の倍数であることを証明する。」
を2つの考え方をを用いて、対話を通じることにより発見し思考力を高める。

考えるための材料

2項定理の公式、組み合わせCの公式をエキスパートとする。

(ア) 2項定理を利用した式の応用

(イ) 組み合わせCの定義式（数学Aにおいて既習済）の応用

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

| | |
|------------------------------|--------|
| (i) 本時の目標と2項定理の公式の確認(全体) | 10分 |
| (ii) エキスパート(4人組) (ア)と(イ) | 15分(*) |
| (iii) エキスパートの説明と応用(ジグソー) まとめ | 25分(*) |

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

最初、どのように考えてよいかわからない問題だったが、エキスパート課題の2項定理の展開式、組み合わせCの変形を理解することで、その融合により課題の証明ができることがわかった。

育成すべき資質・能力の三つの柱から上記のあらわれを評価するための視点

| | |
|--------------------|---|
| ① 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・一般式の公式が、組み合わせCを用いて表せることを理解し、様々な値を代入することにより、様々な値を求めることができる。 ・組み合わせCの公式の変形により、新しい利用法ができる。 |
| ② 思考力・判断力・表現力 | (ii)や(iii)において、(ア)や(イ)においてグループ内で対話を通じて考えを深めたり、新たな考え方を発見したりする。また、グループ内の生徒に説明する際に適切な表現ができる。 |
| ③ 主体性・学びに向かう力協働性など | (iii)において、(ii)のエキスパートで得た知識や考え方を互いに共有し、対話を通じて目標の課題に取り組み、グループ内で適切に表現することができる。 |

授業実践振り返りシート（授業前後）

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え（あらわれ）を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

| | 授業開始直後の学習課題に対する考え | 授業終了時の学習課題に対する考え |
|-----|-----------------------------|---|
| Aさん | どうやって考えたらよいか、考えられない。 | 今回の授業で、以前学習した組み合わせCの計算の仕方など忘れていたことを復習できてよかった。 今回の目標が、定理となっていることを最後に知って驚き、すごいなと思いました。 |
| Bさん | 素数を扱うことから素因数分解などを用いるのではないか。 | ${}_p C_r$ が p の倍数だった！という驚き。まあ確かに考えてみればそうだけど証明してみてスッキリした。 |
| Cさん | どうやったらよいか、考えられない。 | みんなのひらめきのおかげで解くことができました。2項定理の使い方が分かりました。B班の内容は見た目が難しそうだったが、理解したら簡単でした。 |

| 授業設計の振り返り | |
|-------------------|--|
| 解決したい課題や問い | $2^m - 2$ が m で割り切れるという問題が、生徒自身の問題として捉えられずに授業が展開されてしまった。具体的な数値を代入してから不思議さを確認した方がよかったと思われる。（限られた授業時間のなかで、導入をどのくらい扱うかを判断することは難しい。） |
| 考えるための材料 | エキスパート問題のヒントが多く作業的になってしまっていたかもしれない。理解できた生徒ができなかった生徒に説明するだけになってしまい対話により深めることになっていない班がある一方で2つの材料の難易度が適切で各エキスパートが深めていくことができた班もあった。 |
| 対話と思考 | 班の中にわかる生徒が必ず1人いて活発に対話しているようだった。また、お互いが補足しながら考え方をまとめている様子が見られた。一方で、わからなかった生徒がわかった生徒に説明されただけで理解できていたか疑問である。また、作業的になってしまっていた生徒もいた。 |
| 学習の成果 | フェルマーの定理などの学習を発展させるヒントがあった一方で、この問題を通じて、さらに深く追求して新たな課題を見つけることにはつながっていない。発展的に考える問題を扱うことは難しく感じた。 |

出典：



大学発教育支援コンソーシアム推進機構